



近頃は残暑の続くことが多い9月ですが、暦の上ではもう秋。
 9月17日は「中秋の名月」です。旧暦では7・8・9月は秋になります。
 8月は「秋真っ盛り」となり、ちょっと驚いてしまいます。9月3日が新月（旧8月1日）ですから、
 旧8月15日（満月）は今年の暦で9月17日というわけで「中秋の名月」となります。
 ところが、実際の満月は翌日18日です。これは月の軌道（地球を周回する道）が楕円軌道の為、
 ずれが生じることがあるのです。ちなみに、日本では10月の十三夜を「後の月」と呼び、
 これも楽しむことで秋の月見を満喫するという習慣があります。
 今年は10月15日がこれに当たり、こちらを「栗名月」と呼びます。

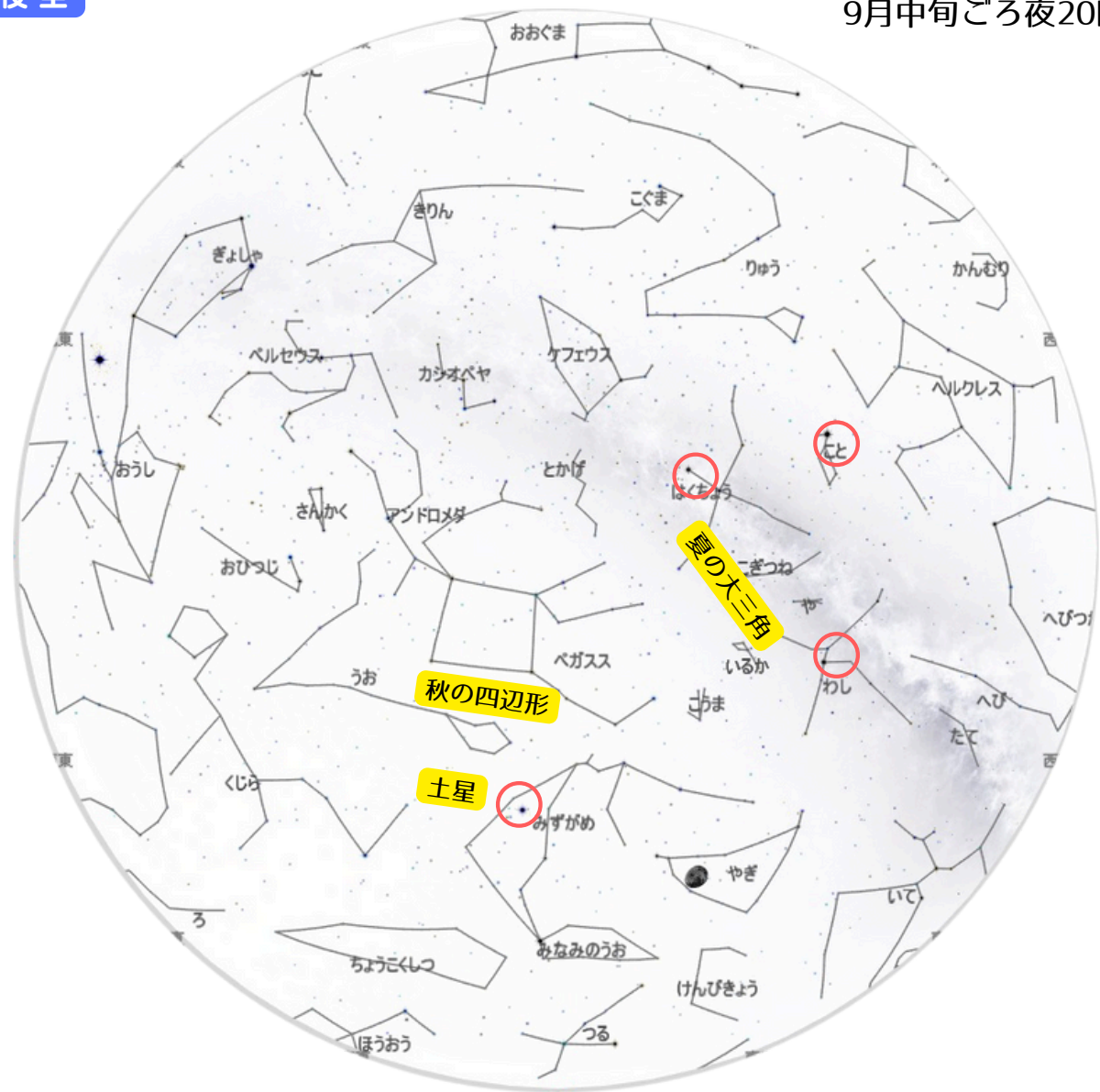
9月の夜空

北

9月中旬ごろ夜20時の星空

東

西



南

- 3日(火) ● 新月
 7日(土) (二十四節気) 白露
 9日(月) 土星が衝(しょう) ※今月の天体イベント①を参照
 11日(水) ● 上弦
 17日(火) 「中秋の名月」月が土星に接近(北0°18′)
 18日(水) ● 満月
 19日(木) 秋の彼岸の入り(～25日)
 22日(日) (二十四節気) 秋分
 25日(水) ● 下弦
 28日(土) 紫金山・ATLAS彗星 近日点通過 ※今月の天体イベント②を参照



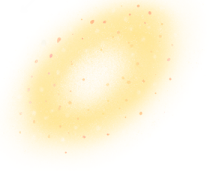
9月オススメ星座

- ・こと・はくちょう・わし
- ・ヘルクレス・へび・へびつかい
- ・いて・やぎ・みずがめ
- ・ペガサス・ペルセウス
- ・アンドロメダ・カシオペア
- ・ケフェウス・りゅう



今月見頃の天体

- 散光星雲 M8・M20など
- 散開星団 ペルセウス座二重星団
- 球状星団 M5・M13など
- 惑星状星雲 M57・M27
- 銀河 M31(アンドロメダ銀河)



今月の天体イベント①

土星が衝

衝(しょう)とは、地球を挟んで土星が太陽の反対側に来ること。衝の時期は、土星が地球に近づき明るくなるため、観望の好機とされ、このころから土星が見頃を迎えます。

来年2025年は土星が真横を向き、環が見えなくなります。

この秋ぜひ、かすかに見える土星の環を観察してみましょう。土星はみずがめ座に位置しています。



今月の天体イベント②

「紫金山(ツーチンシャン)ATLAS彗星」が近日点通過

彗星は発見者の名前が付けられますが、この彗星は中国の紫金山天文台が発見したためこの名がつけられました。

彗星の正式記号はC/2023 A3で近日点というのは「太陽に一番近づく」という事です。

その為ため見つけやすくなります。

2023年1月上旬に見つかった彗星という意味ですが、9月28日に太陽に接近してまた離れていきます。目でも見える「肉眼彗星」となるのではと期待されましたが、観察者によると太陽近辺で崩壊するのではとの見方も出ています。今後の情報に注目しましょう！

記事を書いた人

星空案内人認定制度により、2015年に「星空案内人」となる。
 飯田市美術博物館プラネタリウム解説員として5年、阿智村
 「天空の楽園 ヘブンスそのはら」にて星空ガイドを6年担当。
 わかりやすい解説、もっと星を見たい、知りたくなる星空ガイドを
 心がける。小さな天文学者の会会員。
 長野県プラネタリウム連絡協議会会員。



星空案内人 川手俊美